

# 今に伝わる秩父の人形芝居



出牛浄瑠璃人形收藏庫(皆野町大字金沢)

秩父の山里には江戸末期から脈々と受け継がれる人形芝居があります。村祭りや縁日にその境内で、また、農家の座敷を開け放って手軽に楽しまれてきたのが人形芝居であります。

年々過疎化と少子高齢化が進む中で、人形座の一同はふるさとの伝統文化の継承に情熱を傾けてまいりました。

この度、地域文化の振興と、伝統文化を守り伝える相互交流の場として、「第7回 秩父人形サミット2019 in みなの」を開催する運びとなりました。

江戸時代から明治期農村の娯楽として全盛を極めた人形芝居も、その後衰退の一途をたどりその多くが中止に至っています。秩父には数か所の伝承地がありますが、現在は三か所の人形芝居が伝統文化を受け継ぎ上演できます。一人遣いの横瀬人形。二人遣いの白久の串人形。三人遣いの出牛人形と操作の違う三種類であり、語りも説経節と義太夫節が語られるのも特徴です。

山間の秩父に受け継がれてきた素朴な人形芝居を観、説経節や義太夫節をお聴きください。なお、埼玉県内ではほかに三芳町竹間沢の車人形が上演可能であります。



説経節の床本



清姫怨霊の段

安政年間江戸の説経節の師匠薩摩若太夫から指導を受けた秩父の説経節の祖といわれる薩摩若登太夫こと坂本藤吉が、旧荒川村小野原(現秩父市)にいた。この高弟の横瀬の若林又右衛門(現横瀬人形若林家の先祖)が薩摩若登太夫を名乗り(後に若松佐登太夫)、説経節に人形芝居を取り入れた。横瀬人形は一人遣いで、「ふくさ人形」とか「秩父人形」などと呼ばれ、人形の背中から右手を入れ、人差し指と中指の間に胴串を挟み、親指と小指に人形の手を結びつける。人形芝居には珍しい廻り舞台を持つ。また、この地には「写し絵」も伝わり人形と共に説経節が語られてきた。現在説経節を語りながら三味線を弾く、「弾き語り」の太夫が数人育っている。

## 横瀬の人形芝居

よこぜのにんぎょうしばい

県指定無形民俗文化財



弁慶上使の段

江戸末期、白久の豆早原地区の人が、宴会で箸に手拭いを巻き付け人形の形にし、説経節に合わせ踊ったのが始まりと言われている。明治七年(1874年)、江戸豆人形の頭38個を買い求めたのが今の人形であり、衣装や舞台を作り二人遣いの操り方による人形芝居が生まれ興行が行なわれるようになった。白久の串人形は全国でも例をみない二人遣いである。主遣いが左手で人形の支え棒を持ち、右手で首につながる篠竹や引き栓を操作して、首(頭)や目・眉を動かし表情を付ける。手遣いは、主遣いの後ろで人形の手首に差し込んである竹串で人形の左右の手を遣う。二人の呼吸が要求される。

## 白久の串人形芝居

しろくのくしにんぎょうしばい

県指定無形民俗文化財



尼ヶ崎の段

かつては中山道筋の本庄・児玉方面から秩父への重要な道筋で、「出牛の宿」(現皆野町)として栄えた地に伝わる三人遣いの人形である。義太夫も大変盛んで不動堂には大正三年の義太夫連の奉額に九十名もの名がみえる。芸座には安政二年(1855年)の銘がある。人形は主遣いが人形の首と右手、左遣いは人形の左手、足遣いは人形の足裁きといった役割で黒衣装に頭巾をつける。この出牛人形は不動様の縁日に三番叟の人形を飾り供えたり、雨乞い人形とも呼ばれる菅丞相の人形を飾り祈雨を願ったり、人形を持つ呪力や信仰が今でも生きている。

## 出牛浄瑠璃人形

じゅうじしょうりになんぎょう

県指定有形民俗文化財